

「全ての子どもが平等に保育を受けること のできるようにする」

熊本県立熊本北高等学校 普通科
総合的な探究の時間 C1班

1 研究の動機

待機児童。これは保育施設への入所条件を満たしており、入所申請をしているにもかかわらず、保育施設の利用ができていない未就学児のことである。では少子化問題が深刻化している現在、どうしてこのような問題が起こっているのだろうか。その要因は保育士と保育所が少ないことにある。現在日本では社会変化や長引く経済不況により共働きの家庭が増え、女性が社会進出するようになった。その結果、保育所の需要が高まり供給が追いつかなくなったことで待機児童が増加した。つまり待機児童問題を解決すれば家庭の経済状況をよりよくし、女性の社会進出を手助けすることができる。また、待機児童問題を解決することで保育所に預けられるという安心感が生まれ、少子化問題や晩婚化の解決策にも繋がる。

そこで私達はこの論文のテーマを「全ての子どもが平等に保育を受けることのできるようにする」と設定し研究を始めた。

2 研究の目次、方法

目次

1. 方法

2. 1 保育士数と保育士の仕事内容

2. 2 保育士数と保育士の給料

2. 3 保育士数と男性保育士

2. 4 保育所の数と分布、待機児童数

3. 1 幼老複合施設による土地不足解決

3. 2 高齢者による保育士不足解決

3. 3 ITの活用による負担軽減

4. 1 結論

4. 2 今後の課題

4. 3 参考文献

方法

・分野を仕事内容、給料、男性保育士、保育所、家庭にわけ調べる。

・保育士の仕事の種類や量、負担についてインターネットやSNSの口コミで調査する。

・保育士の給料が低い理由を知るために国の収入や保育への予算、保育園の予算、保育士の給料の仕組み等を調べ、それらをもとに保育士の給料を上げるための考察をする。

・男性保育士の数や取消者数、過去の事件や男性保育士についての印象等を調べ考察する。

・保育所の数や分布、立地条件などを調べ考察する。

・年収400万を下回る家庭の経済状況、両親の帰宅時間について調べ考察する。

・調べたことをまとめ考察する

3 研究の結果

2.1 保育士数と保育士の仕事量

保育所に通えない子どもがいる原因として保育士不足が挙げられる。保育士不足の原因は保育士の仕事は大変だというイメージであり、そのイメージが保育士志望が少ない要因である。では実際保育士の仕事はどのようなものなのだろうか。

これは保育士の仕事内容と時間である。

	保育士
対象	0歳～小学校就学前
目的	保育に欠ける乳児、幼児を保育し、基本生活習慣を養う。
職場	保育園、乳児院、児童養護施設など
時間	8～9時間+サービス
休園日	規定なし 園によっては長期休みもあり
人員配置基準	0歳:3人に1人 1,2歳:6人に1人 3歳:20人に1人 4,5歳:30人に1人
目的	保育(厚生労働省)

	保育士
7:00	早番出勤
8:00	園児登園
9:00	活動
12:00	昼食、遅番出勤
13:00	お昼寝、事務作業
15:00	おやつ
16:00	園児降園、早番退勤
17:00	園児降園
18:00	延長保育
20:00	遅番退勤

保育士は、受け持つ年齢が0歳からであるため身の回りのすべてのお世話をしてあげなければならない、コミュニケーションがとれず気持ちが読み取りにくいといった大変さがある。他にも、予定外の仕事が発生する、サービス残業が多い、女性ならではの人間関係が大変、体力がもたない、本来各家庭で教えるべきことを園に要求される、クレームの対応がつらいといったものがある。

また、0歳から2歳までの子どもにかかる保育士の数が多く、対応しきれないため、待機児童数は0歳から2歳までが多い。令和元年度の待機児童数によると待機児童の総数が12439人であるのに対し、0歳から2歳の総数は10830人となっている。

保育士不足を解消するには、保育士のイメージを改善していく必要がある。そのために過度な残業や勤務時間を改善すること。また、保護者からの要望や対応などの仕事の負担を減らすために、要望を募集するサイトなどを設立し、業務を分散させるなどの取り組みが必要である。

2.2 保育士数と保育士の給料

前項で保育士の仕事内容の大変さや量の多さを話したが、保育士を辞める主な理由はその仕事量に給料が見合っていないためである。厚生労働省による保育士離職理由によると約30%の人が給料が低いから退職していた。また、現在日本では離職や転職をされていて免許を持っているが保育士ではない、いわゆる潜在保育士が多く存在しており、年々保育士の求人倍率が上がり厚生労働省によると全国平均は約2倍、倍率が1倍を下回っている県が1つほどしかないという現状がある一方で、保育士養成施設卒業者のうち保育士に携わる人の割合は約66%ほどしかない。その結果一年に新規で保育士になる人は約4.9万人、離職する人は約3.3人となっており現在日本は深刻な保育士不足という問題を抱えている。

まず保育士の給料が低い理由を調べた。国の収入は全体で約101兆円あり、この内約638億円ほどが保育にあてられる予算となっている。保育に与えられる補助金の計算方法は、保育単価×子どもの人数+保育士加算となっており、保育園は児童福祉施設最低基準を満たし国から認可を得ることができれば国からある程度のお金を受け取ることができる。

保育士の給料は民間の保育士と公務員保育士で分かれており、民間の保育士の場合はその保育園を運営する運営会社が決定する。このとき保育園の収入は国が決める公定価格がベースの公費と保護者が支払う保育料の2つからなっておりこの中から運営費用を確保し、残りが保育士の賃金となっている。しかし保育園は基本的には福祉施設であるため、その収入を保育園側が決められるわけではなく、公定価格は政府が決め税金で賄う施設であるので過剰に利益がでないように金額が設定されている。つまり人件費にかけられる金額はわずかしか残らないようになっている。そのため保育士の給料は低いという現状が生まれている。つまり公定価格を上げることが保育士の給与を上げるということに繋がる。

公務員保育士の給料はこの仕組みに加え年功序列制度や昇給や賞与、退職金があり、年収に120万円ほど差がある。また各種手当や休暇、産休もあり、長く働くことができる。

調べた結果、保育士の給料を上げるには公定価格を上げることが必要だとわかった。国は給料を上げるために政策として保育の受け皿拡大や介護離職ゼロを掲げ保育士や介護職員の待遇改善のための取り組みを行ってきた。それは公定価格は子ども1人当たりを単価として設定しており、人件費、事業費、管理費などが、各々どの程度必要かを評価しているためだ。そのため待遇改善や受け皿拡大などが保育士の給料を上げることに繋がる。だがこれには問題がある。公定価格で換算された人件費は国の基準で決められている。つまり一定の児童に対し保育士を配置する形となっている。しかしそれでは現場では保育が成り立たない。その結果、各私立保育園では国の基準の2倍ほどの保育士を雇い入れている。そのため供給される人件費に対して保育士が多く、保育士の給料が低くなるということが起こっている。

保育士に供給される人件費がそもそも少なく、待機児童を減らすには保育の受け皿を拡大するために保育士を増やすだけではいけないということが分かった。また現在の保育士の給料が低いため、保育士を目指す人は少なく、現場に復帰する人も少ない。

そこで育児家事の実践経験豊富で高齢者を保育園で雇用することについて考察した。高齢者を雇う上で体力などの健康面やIT化によるデジタルへの対応などの問題がある。また経験が活かさない環境だと仕事の質がおちる場合もある。しかし保育園ならば高齢者の経験を活かすことができ、体力などの健康面に問題があっても他の仕事よりは活躍できるはずだ。

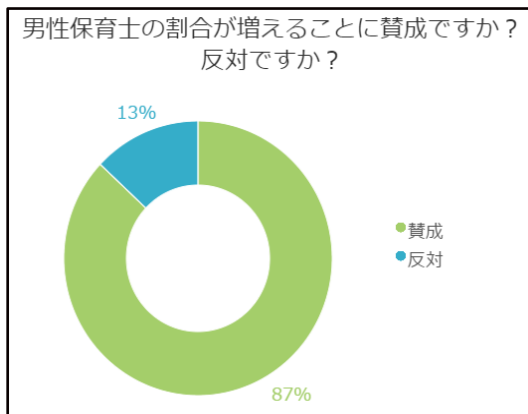
2.3 保育士数と男性保育士

男性保育士の実態は厚生労働省「保育士等に関する関係資料（H27.12）」より、保育士登録者数が百万人を超えるのに対し男性保育士は約5万人と全体の約4%であり、しかも実際に男性保育士として勤務しているとは限らないため、実態はもっと少ないと言える。

	登録者累計		
	男	女	計
令和2年4月1日	82,330	1,583,219	1,665,549
平成31年4月1日	78,080	1,520,476	1,598,556
平成30年4月1日	73,576	1,457,296	1,530,872
平成29年4月1日	68,976	1,390,882	1,459,858
平成28年4月1日	63,837	1,321,840	1,385,677
平成27年4月1日	59,018	1,253,223	1,312,241
平成26年4月1日	54,423	1,191,929	1,246,352
	男	女	計
		67	60
	53	54	107
	46	53	99
	41	49	90
	38	45	83
	28	38	66
	24	30	54

しかし、厚生労働省の保育士登録者数等（男女別31）によると、男性取消者数の累計が平成26年4月1日から平成31年4月1日まで下回っているのに対し令和2年4月1日には男性取消者67名、女性は60名で男性取消者数が女性取消者数を上回っている。

また、男性保育士の増加に賛成か反対かを問うアンケートでは100名中87名が賛成という結果が出ている。全体的に見ると賛成派が大多数を占めているが、反対派がいるのも事実だ。賛成派の意見としては男性保育士の否定に対し男女差別、職業選択の自由ではない、園児にとって父親の役割を期待できる、力仕事を頼める、人手不足という意見がある。しかし反対派の意見は、女性の方が信頼できるし子供のことをより理解していると思うから、男性視点では子供の些細な変化に気づけないと思う、園内での暴力事件が発生してしまうのが容易に想像できるから、純粋に子供を思い目指す方もいるけれども、変わった嗜好を持つ人もいるだろうし、見分けがつかない等のものであった。やはり反対派の



意見には、保育士が男性であることでの子どもたちへの影響を懸念しているものが多い。また、過去の男性保育士の犯罪によるイメージが反映されていると言えるだろう。

しかし、実際に男性保育士による犯罪が起きたのも事実である。読売新聞の調査によると、2014年から2018年の5年間で、事件により保育士の資格が剥奪された男性保育士の数は22人であり、その中で性犯罪絡みは16人。平成22年の男性保育士の就労数は約1万3,000人なので、その値と比較をしても約0.1%程度の割合となり、ほとんどの男性保育士は問題がないのに対し、やはり犯罪件数が多いことで報道されることも多く、反対派の持つ男性保育士への現在のイメージが定着してしまっていると言えるだろう。

これまでの児童福祉法では、登録を取り消された保育士は2年経過すれば再登録できることになっていたが、改正法が施行される23年から、刑終了後最長10年に延長される。男性保育士の犯罪件数や被害者となる園児が減り、男性保育士の増加に反対派の人々が持つようなイメージが消え、男性保育士の働きやすい環境となるのを待ち望むばかりだ。

結果より、男性保育士による犯罪件数自体は他の犯罪件数より少なく、男性保育士全体における犯罪者の割合は極めて少ないと言える。しかし、過去の男性保育士による犯罪から、現在の男性保育士に対する悪印象が形成され、それが一部の人たちの間で男性保育士の増加に対し反対の意見が強い理由だと言える。

結果、過去に発生した男性保育士による事件が男性保育士の増加に対し反対派の人々の持つ悪印象を定着させてしまった、と言えるだろう。また、犯罪のイメージがこれほどまでに強い原因はメディアの報道方法にあるのではないかという考察に至った。しかし逆に、男性保育士の悪印象の払拭や男性保育士が不足している現状を伝えることは、テレビCMやWebメ

結果、過去に発生した男性保育士による事件が男性保育士の増加に対し反対派の人々の持つ悪印象を定着させてしまった、と言えるだろう。また、犯罪のイメージがこれほどまでに強い原因はメディアの報道方法にあるのではないかという考察に至った。しかし逆に、男性保育士の悪印象の払拭や男性保育士が不足している現状を伝えることは、テレビCMやWebメ

ディア等で身近に取り上げることにより可能となるのではないか。もしこれが実現したならば、男性保育士を志す若者が増え、人々の認識が変わるときが来るかもしれない。

2.4 保育所の数と分布、待機児童数

2.2項の最後のとおり、待機児童問題解決のためには保育士を増やすだけでなく、必要な場所に必要だけ増やすことが重要である。では保育士が必要な場所とはどこだろうか。地域別の待機児童問題の状況全国47都道府県1741地区あるうち、約80%にあたる1301地区では待機児童は0人である。しかしそれ以外の約20%の地区、特に都市部では全体の約70%にあたる13930人の待機児童を抱えている。特に多い地域としては東京都の55414人、沖縄の1870人、埼玉県の1552人となっており、1000人の待機児童を抱える主要な地域である。つまり都市部に保育士を増やすことが必要である。

ではなぜ都市部に待機児童が集中しているのだろうか。

認可保育所の設置基準

入所対象	0歳～小学校入学前
定員	60名以上
職員数	0歳3人に1人以上 1,2歳6人に1人以上 3歳20人に1人以上 4歳以上30人に1人以上
資格	保育士
保育室等の設備	乳児室またはほふく室 0,1歳1人に3.3m ² 保育室等 2歳以上1人に1.98m ² 屋外遊技場 2歳以上1人に3.3m ² 以上 医務室 静養できる機能を有する 理室、便所 定員に見合う面積を有する
給食	自園調理または委託

物件選びのポイント

ポイント	例
なるべく危険な場所は避けること	歩道の少ない車通りの多い場所や、側溝の多いところなど
送迎がしやすい	車での送迎のしやす

ところを選ぶ	い場所を選ぶなど
--------	----------

保育所の分布状況

保育所数		保育所入所待機児童数	
1位：東京都	1,774所	1位：東京都	8,672人
2位：愛知県	1,174所	5位：神奈川県	1,079人
3位：神奈川県	1,146所	18位：奈良県	191人
45位：香川県	200所	20位：愛知県	107人
46位：奈良県	178所	36位：香川県	0人
46位：鳥取県	178所	36位：鳥取県	0人

この表から、保育所数と保育所入所待機児童数は都道府県によっては比例していないことがわかる。つまり東京都などの都市部にはすでに保育所数が地方より多いのにも関わらず、人口に対する土地不足により待機児童問題が起こっている。

また、これから都心などで保育所を増やすためには少ない土地の中で安全かつ送迎のしやすく、また近所迷惑にならない所を探さなければならない。

4 研究の考察

3.1 幼老複合施設による土地不足解決

都心などで保育所を増やすためには少ない土地の中で安全かつ送迎のしやすく、また近所迷惑にならない所を探さなければならない。ではどうすればいいか。この問題を解決するために幼老複合施設をつくることを考察した。幼老複合施設とは保育所と老人ホームをあわせたものである。この2つをあわせることで、土地を有効に使うことができ、コストを抑えることが可能になる。

また、子どもと高齢者が関わることで相互にメリットが生まれる。例えば子どもは年上をいたわる気持ちや礼儀や挨拶などのマナー、幅広い知識を身につけることができ、高齢者は笑顔や生きがい、活動量が増え、脳を活性化させることができる。

さらに、少子高齢化が進んでいる現在、保育所を増やしすぎるとこの先必要とされない保育所が増える可能性もある。また老人ホームが必要とされることも見込まれる。そういった未来に臨機応変に対応するためにも幼老複合施設を導入することを提案する。

3.2 高齢者による保育士不足解決

幼老複合施設で保育をする場所が増えたとしてもやはり保育士不足は問題であり、解決しなければならない課題である。そこで高齢者を雇うことについて考察した。家事育児の実践経験豊富な高齢者を起用できないか。この仮説を立証するためにまず仕事をしている高齢者の数、地域別の高齢者数、地域別の待機児童数について調べた。

全国の60歳以上の就業状況は収入のある仕事をしている者が37%おり、性別年齢別に見ると男性の60～69歳と女性の60～64歳は約60%以上が仕事をしている。また年齢が上がるごとに仕事をしている人の割合は下がっており、体力や健康面の問題のため、全体の26%が働くのは65歳まで、22%が70歳まで12%が75歳まで15%が働くつもりはないとなっている。(内閣府.“就業状況.”高齢化の状況.) (2016) (2022/11/9)

2018年の高齢化率は都市部である東京都は23%、地方部である青森県は33%となっている。(内閣府.“地域別にみた高齢化.”高齢化の状況.) (2015) (2022/11/9)しかし都市部は総数が多いため総数だと東京都は311万人、青森県は9万人と東京都の方が多い。

待機児童の地域別の人数は東京都が8672人、神奈川県が1079人と都市部に集中しており、高齢化が進んでいる秋田県では53人、青森県では0人と地方部には少ないことが分かる。(都道府県格付研究所.“保育所入所待機児童数ランキング.”) (2014) (2022/11/9)

つまり長期の雇用はできないが、待機児童が多く保育の人手が必要な都市部に必要なだけ高齢者を雇うことで保育士不足による保育士の負担軽減などが見込まれる。

また、幼老複合施設の案と併用することで保育に関わった高齢者を優先的に幼老複合施設に迎え入れる等、高齢者にもメリットが多い選択にすることも可能である。

3.3 ITの活用による負担軽減

3.1項や3.2項で土地不足の解決や保育士不足の解決を考察したが、それ以外にもまだまだ問題は山積みである。例えば保育士の仕事の負担の大きさ、男性保育士のイメージの向上、保育所で働く高齢者の募集などがある。そこでインターネットの活用について考察した。保育士の仕事の一つに保護者の要望を聞くことやクレーム対応がある。本来保育の環境をよくするためのものが保育士の仕事の負担となっている。

しかしこの仕事をIT化すれば様々なメリットが生まれるのではないか。例えば、保育士の負担が減るだけでなく、男性保育士を広めたり、高齢者の求人をすることも可能である。また少子化、晩婚化の原因である子育ての不安や保育所と国の連携のための情報交換の場としても利用することが可能である。

5 研究の結論

結論

幼老複合施設や高齢者の雇用、インターネットの活用をすることで国と保育士、保護者が待機児童問題と少子高齢化問題について今だけではなく未来も見据えながら臨機応変に対応していくことが必要だ。

今後の課題

今後の課題としては幼老複合施設も高齢者の雇用も実践的な話まで到達しておらず、より深めていくことが必要だと感じた。また、男性保育士などより身近に感じられるよう、保育のサイトだけでなく、スマートフォンなどでのニュース等でも知ってもらうことが大事だと感じた。

参考文献

- ずっと保育士。“保育の求人トップ。” (2020/11/3) <https://www.g-asuka.co.jp/job-info/column/faq-haken-009.html>
- ほいくの森。“保育士が知っておきたい保育園のお金の話。”保育士向けコラム (2022) <https://hoikumori.com/salary-money-guide/>
- 坊山 由美。“日本の税金は約50種類!?何がある?使い道は?”ハルメク365 (2020/1/24) <https://halmek.co.jp/life/c/money/1804#>
- ekaigo with。“介護職の給与欄によく見る「処遇改善」とは?。” (2022/1/11) <https://www.ekaigotenshoku.com/ekaigowith/2022/01/11/syogukaizen/#>
- 保育経営を助けるFCコンサルまとめ。“補助金。” (2016/4) <https://www.nurserymg-fcconsult.net/guide/subsidy.html>
- sacaso保育。“保育士お役立ちプログラム”公立保育士と私立保育士、それぞれの違いやメリットとは (2022/2/23) <https://www.hoiku.sacaso.jp/column/archive/20200831-2/>
- 厚生労働省。“保育所等整備交付金。” (2020) <https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/00707811.pdf>
- 厚生労働省。“児童福祉施設最低基準。” (2020) <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/tuuchi-04.pdf>
- 厚生労働省。“平均賃金。” (2017) <https://jsite.mhlw.go.jp/miyagi-roudoukyoku/var/rev0/0119/7609/ho3.pdf>
- 厚生労働省。“保育所等関連状況取りまとめ。” (2020/9/4) <https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000678692.pdf>
- 内閣府。“子育て支援事業者の方向け情報。” (2022/9) <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/jigyousya.html>
- 内閣府。“就業状況。”高齢化の状況。(2016) (2022/11/9) https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_3_1_2.html
- 内閣府。“地域別にみた高齢化。”高齢化の状況。(2015) (2022/11/9) https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/html/zenbun/s1_1_4.html
- ボーグル。“高齢者雇用にともなうデメリット。”健康経営。(2022/8/22) <https://bowgl.com/elderly-employment-merit/>
- 厚生労働省。“待機児童の状況。” (2016/9/16) https://www.chisou.go.jp/tiiki/kokusentoc_wg/h28/shouchou/160916_shiryous_5_2.pdf
- 「無園児家庭の孤独感と定期保育ニーズに関する全国調査」結果発表。働く親のための保育園から、全ての子どものための保育園へ! (2022/06/15) <https://florence.or.jp/news/2022/06/post52393/>

待機児童の原因は保育士不足？現状についてや解決策のための対策を解説(2022/05/24)

<https://www.hoiku-aruaru.com/content/blog-news-hoiku/taikijidou.html#:~:text=%E3%82%92>

<https://www.nurserymg-fcconsul.net/guide/standard.html>

保育園経営を助けるFC・コンサルまとめ

認可保育所・小規模認可保育園の設置基準まとめ

<https://www.nurserymg-fcconsul.net/guide/standard.html>

保育園経営を助けるFC・コンサルまとめ

認可外保育園を開園する際の準備とポイント

<https://www.nurserymg-fcconsul.net/circumstance/opening.html>

保育園経営を助けるFC・コンサルまとめ

認可保育園の経営に必要な情報ガイド

https://www.nurserymg-fcconsul.net/chart/licensed_kindergarten.html

保育園経営を助けるFC・コンサルまとめ

保育園経営者必見！開業に最適な物件選びの3つのポイント

<https://www.nurserymg-fcconsul.net/circumstance/choice.html>

②保育所等関連状況取りまとめ（令和2年4月1日）

<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000678692.pdf>

保育所数の都道府県ランキング

<http://grading.jpn.org/J2503.html#:~:text=47%E9%83%BD%E9%81%93%E5%BA%9C%E7%9C%8C%E3%82%92%E5%AF%BE%E8%B1%A1,%E7%9C%8C%E3%81%AE200%E6%89%80%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

保育所入所待機児童数の都道府県ランキング

<http://grading.jpn.org/J250502.html>

【プロが解説】保育園補助金の基礎知識！補助金から事例までご紹介

<https://ichitasu.co.jp/nursery-subsidy>

保育士の仕事内容と1日のスケジュール

<https://www.u-can.co.jp> > 全講座一覧 > 保育士講座

幼稚園教諭 | お仕事図鑑 夢に向かって飛び立とう！

<https://www.kawahara.ac.jp> > job_book > job_i01

保育士のやりがいと大変さを徹底解説

<https://www.u-can.co.jp> > 全講座一覧 > 保育士講座

保育士くらぶ ” 男性保育士は危険！？【イメージ・性格・年収・割合は】 ”

(2021/08/22)

https://www.hoikujoyouhou.com/hoiku_club/99

ほいく男子会プラス10% ” 男性保育士に関するアンケート調査！増えることに賛成？反対？” (2017/03/15)

<http://hoiku-10up.com/2017/03/15/post-421/>

厚生労働省 ” 保育士登録者数等（男女別） ” (2020/04/01)

<https://www.mhlw.go.jp/content/000656131.pdf>

男性保育士info ” 男性保育士の事件件数は？性犯罪は多い？” (2019/10/15)

<http://man-childminder-info.blog.jp/archives/3814653.html>

福井新聞社 ” 保育士わいせつ事件、保護者に今も残る怒りと娘のトラウマへの不安「思い出ただけでも腹立たしい」 ” (2022/07/27)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/e3aee56ae2bee71a27a04e10128431bd4c3d494>

